

第5章 学生生活

本学の教育目標である「自立心・対話力・創造性」を身に付けた女性として学生を社会に送り出すためには、授業やゼミ等の教育課程のみでは不十分である。学生の日常生活や将来設計にまでふみこんだ指導を全学あげて行うと共に、学生の側から持ち込まれる相談の窓口を広げ、多様で適切な対応ができる体制の構築が必要である。

近年は経済的事情で就学が困難になる学生が見られることから、奨学金制度の充実を図り、学業優秀者だけでなく、学内外で顕著な業績を示した者にも対象を広げて支援していく。

学生生活上の諸問題については、学修や生活上の環境の整備にたえず配慮する。心身の健康保持やハラスメントに対しても、相談の窓口や指導体制の充実につとめていく。学生の進路・就職については、キャリアサポートセンターを独立させたところであり、さまざまな働きかけを通して、適切な進路指導を行っていく。

大学院においても、奨学金制度の充実、相談業務の充実を図り、日常生活や心身の健康、ハラスメント等に対する相談に適正に対応できる制度を充実させることを目指している。

大学祭やクラブ・サークルといった課外活動は活発であり、今後とも支援体制を堅持して豊かな活動を保証していく。定期的に持たれている学生代表との意見交換の場も、これを継続していく。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

 大学評価
 (認証評価)
 結果

目標

- ◎奨学金制度については、現行の豊富な制度を維持しつつ、学業優秀者のみならず、学内外で顕著な業績を示した者も対象とできるよう制度を整備する。
- ◎心身や生活上の問題、ハラスメント等に対する相談については、保健室・学生相談室とクラス担任制の2系統からなる現行制度を堅持し、適正な対応に努める。
- ◎進路・就職に関しては、独立したキャリアサポートセンターの様々な活動を通して、たえず相談と指導に当たることができる体制を構築していく。
- ◎大学祭やクラブ・サークルといった課外活動について、学生代表との意見交換の場を維持しつつ、豊かな活動を保証するための態勢を確立していく。

A. 学生への経済的支援

必須・奨学金その他学生への経済的支援を図るための措置の有効性、適切性

選択・各種奨学金へのアクセスを容易にするような学生への情報提供の状況とその適切性

[現状の説明]

学生への経済的支援は、本学独自の奨学金及び授業料減免制度として次の8種類がある。以下、免除制度、給付制度、貸与制度、その他に区分して説明していく。

[免除制度]

1. 神戸女子大学学術奨励制度

優秀な成績を修め、品行方正で将来優れた人物になると期待される学生を本学が推薦、選考し、授業料および教育・施設充実費の全額または半額を免除する。

2. 神戸女子大学特別援助奨学制度

在学中、家計が急変し、修学が著しく困難と認められた学生に対し、授業料および教育・施設充実費の半額を免除する。

3. 神戸女子大学大学院外国人留学生授業料減免制度

大学院に在籍する外国人留学生の内、申請があった学生に対して、年額 400,000 円を減免する。

[給付制度]

4. 神戸女子大学大学院奨学金

博士前期課程大学院生については学業成績優秀な学生を対象とし、授業料年額の2分の1を支給する。博士後期課程大学院生の内、博士学位の取得が期待される学生を対象とし、授業料年額と同額を支給する。

5. 神戸女子大学青山会奨学金

在学中、経済的理由により就学継続が著しく困難と認められた学生に対し、青山会（同窓会）から授業料の半期分相当額を給付する。

6. 神戸女子大学教育後援会育英奨学生奨学金

在学中、経済的に困窮している学生に対し、教育後援会から1種（20万円）または2種（10万円）を年2回募集し、給付する。

[貸与制度]

7. 神戸女子大学教育後援会短期貸付事業

全学部学生を対象に、1回につき3万円を上限に短期貸付を行う。

[その他]

8. 外国留学規程による免除

『神戸女子大学学生の外国留学規程』第12条に基づき、留学期間中の授業料等を1/4に

減額する制度である。文学部神戸国際教養学科のピッツァー大学へ長期留学する学生に適用している。

また、上記8種類に加えて、日本学生支援機構、地方公共団体、民間育英団体の奨学金等がある。主な奨学金の給付、貸与の状況は『大学基礎データ表44』のとおりである。

これらの奨学金の募集や手続きに関しては、学内の所定場所に掲示を行う他、入学時に新入生に配付する『学生生活の手引2008』pp.20-21で周知すると共に、新入生を含む希望者に対しては毎年、年度初めのオリエンテーション期間に説明会を実施している。また、地震や自然災害のあった場合等の対応については、学生課のホームページ上でも随時情報を提供している。なお、学校教育学専攻科については独自の奨学金制度は整備されていない。

[点検・評価—長所と問題点]

本学の経済的支援策の中では、日本学生支援機構の奨学金が、申請者、採用者とも最も多数である。大学独自の奨学金については、学部、大学院を合わせて総額3,500万円に相当する支援を行っている。本学独自の神戸女子大学学術奨励奨学制度では、従来、対象者を2年次生以上の学科毎の成績上位者から選び、支給してきた。これは、成績優秀者に対する報奨的側面も持っており、本人の大きな励みになると同時に学生の学力水準向上にも寄与していると言える。更に学業優秀者だけでなく、スポーツ分野等、国内外・学内外において顕著な業績を示した者にも支給している。

一方、神戸女子大学特別援助奨学金は、近年、経済的事情等により、修学が困難となる学生が見られることから、その申請者数は増加傾向にある。特に2006年度以後は、全国的に風水害や地震等各地でさまざまな自然災害が多発したため、安否確認をすると同時にこれらの災害で保証人が被災した在学生に対し、経済的支援を図ることを目的として、申し出により授業料の減免をしている。

また、神戸女子大学大学院奨学金については在籍学生の79.4%が受給しており、大学院生の研究活動の推進に貢献している。

更に、2006年度から神戸女子大学教育後援会が設置され、ここからも育英奨学金が支給されるようになった。

[今後の改善・改革に向けた方策]

本学独自の奨学金はほとんどが給付であることを学生に自覚させ、自立することを促すことが必要となる。また、国際交流が活発化してきており、留学生に対する制度の充実も今後検討を行う必要がある。更に、日本学生支援機構の奨学金については貸与であり、卒業後の返還についても責務があることの自覚を促すと共に指導を行う。

また、学校教育学専攻科のみが「奨学金制度」が整備されていないが、学生からの要望もあり、今後、減免制度を導入することも検討する予定である。

B. 学生の研究活動への支援

選択・学生に対し、研究プロジェクトへの参加を促すための配慮の適切性

選択・学生に対し、各種論文集およびその他の公的刊行物への執筆を促すための方途の適切性

[現状の説明]

健康福祉学部では、前身である文学部社会福祉学科の時代から引き続いて、卒業生と在学生

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

大学評価
(認証評価)
結果

による「研究交流会」を毎年実施してきた。「研究交流会」は、シンポジウムその他幾つかの分科会を設け、福祉現場で働く卒業生による実践・研究発表を行い、在学生在が将来の進路を考えたり卒業論文に取り組む上で有効な機会となっている。本学科の研究紀要「社会福祉学研究」は、会員である学生に配付しているが、まだ学部学生の論文投稿の場とはなっていない。

文学研究科では、博士後期課程在籍者や研究生に対して、研究会、例会、講演会、シンポジウムへの参加を呼びかけ、また、学内外の各種学会機関誌への投稿を奨励している。

近年、修士論文の優秀なものや博士論文の一部を構成することになる論文が学内の学会機関誌に投稿され、掲載されるようになってきた。

なお、学部・学科に関しては特に記述すべき事例はない。

[点検・評価—長所と問題点]

上記のとおり学内学会機関誌への投稿、掲載は大学院教育、研究の活性化の現われとして評価できるが、学外での学会発表や投稿も望まれる。

また、大学内外との研究プロジェクトが年々活発になってきているので、学生がそれらのプロジェクトに積極的に参加できる環境を早急に整えることが必要と考える。

[今後の改善・改革に向けた方策]

各学会の活性化や、各機関誌の内容の充実に加え、研究プロジェクトへの参加や投稿・研究発表に際して発生する学生の経費負担（課金や旅費等）に対して補助できる制度等の整備が課題である。

C. 生活相談等

必須・学生の心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮の適切性

選択・生活相談担当部署の活動の有効性

選択・生活相談、進路相談を行う専門のカウンセラーやアドバイザーなどの配置状況

選択・不登校の学生への対応状況

選択・学生生活に関する満足度アンケートの実施と活用の状況

[現状の説明]

本学では、心身や生活上に問題を抱えた学生の相談窓口として、保健室や学生相談室を設置すると共に、クラス担任制をとって対処している。

1. 保健室・学生相談室

学生の生活相談等に対応するための保健室と学生相談室は、須磨キャンパスとポートアイランドキャンパスにそれぞれ1箇所ずつ設置している。

保健室は、学生の健康を保持し、健康づくりを支援することを目的とし、応急処置や定期健康診断の実施、健康管理のための指導や援助を行っている。保健師は、須磨キャンパスに2名、ポートアイランドキャンパスに1名配置されている。また学医を須磨キャンパスに2名（内科医、精神科医、いずれも非常勤）、ポートアイランドキャンパスに1名（非常勤内科医）配置し、定期的に医療面でのサポートを行っている。

学生相談室では、学生の心の悩みごと、学業、将来、生活に関する相談に、4名の専門カウンセラー（専任2名、非常勤2名）が対応している。2008年度の開設時間は、須磨キャンパスが月曜日～金曜日（週5日）の9時半から18時、ポートアイランドキャンパスは月曜日・水曜日・

木曜日・金曜日（週4日）の9時半から18時である。学生相談室の利用状況は『大学基礎データ表45』のとおりである。

保健室や学生相談室の利用方法については、入学時のガイダンスで説明すると共に『学生生活の手引2008』p.28、31に掲載し、学生へ周知している。これら2室の運営は、学生部、保健管理委員会（学医、教員、学生課長、保健師で構成）、学生支援委員会の3者が連携を取って行っている。また、保健室・学生相談室のいずれにおいても対応できない場合は、地域の医療機関を紹介し、受診することを勧めている。これらの地域医療機関とは、日常的に連携をとっている。

2. クラス担任制

大学では、各学部各学科のクラスごとにクラス担任の教員を配置し、原則として入学時から卒業まで同じクラスを担当する。学生は、さまざまな相談事項が生じた場合、随時このクラス担任に相談することができる。また、定期的な面談の機会として、毎年5月頃から7月頃にかけて、全学生を対象に、個別面談を実施している。この個別面談の機会に、学生生活におけるさまざまな問題に関するアンケート調査を行い、集計処理をして次年度以降の学生指導の参考にしている（『保健管理年報』（第19号）pp.22-26参照）。なお、学生相談に来ない学生に対しては、再度呼び出しを行ったり、電話やeメールで連絡を取ったり、保証人に連絡を取るなどして、学生の状況把握に努めると共に、不登校の防止に心がけている。

[点検・評価—長所と問題点]

2008年度から臨床心理士の資格を持った専任職員1名を採用し、ポートアイランドキャンパスで週4日、須磨キャンパスで1日勤務することとなった。このため、ポートアイランドキャンパスでの開室は週4日に増加し、受付開始も11時から9時半に1時間半繰り上げられ、利便性が高まった。しかしながら、学生相談室は利用者数が増加の傾向にあり、開室日の拡大を図る等に対応しているが、須磨キャンパスでは相談室が1室しかなく、待合室もない現状がある。保健室についても応急処置、相談を合わせて利用数が多くなっている。

[今後の改善・改革に向けた方策]

須磨キャンパスとポートアイランドキャンパスの2キャンパスにそれぞれ保健室・学生相談室があり、担当者も異なっていることから、学生部及び学生支援委員会では担当者間の緊密な連携を取るよう心がけている。また、スペースを拡大することは早急には困難であるが、什器類の配置等の変更をしてスペースの有効利用をするための検討を行っている。

必須・ハラスメント防止のための措置の適切性

[現状の説明]

ハラスメントには、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等多様なものがある。これらの防止のため、教職員に対しては、人権環境委員会を中心となって研修会を実施している。学生に対しては、入学時のオリエンテーションで各種ハラスメントについて解説する他、『学生生活の手引』やパンフレット等で周知を図っている。年2回発行の『キャンパスニュース』（例えばNo.22 pp.24-25）にも掲載し、継続的に周知するようにしている。なお、本学での相談窓口は、クラス担任、保健室、学生相談室、人権環境委員である。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

 大学評価
 (認証評価)
 結果

[点検・評価—長所と問題点]

ハラスメントは広報活動で周知してもその定義どおりにはいかず、捉え方にも個人差があり、被害者が沈黙して表面化しにくい場合がある。従って、学生、教職員双方に十分な啓蒙活動を行って意識を啓発する必要がある。このための取り組みとして現状の取り組みはほぼ適正なものと言える。

[今後の改善・改革に向けた方策]

各種ハラスメント防止に対する関係者の意識を徹底するため、引き続き、学生、教職員への積極的な広報、啓蒙活動を継続していく。また、相談窓口が設置されていることの周知や相談しやすい環境をつくる必要がある。

D. 就職指導

必須・学生の進路選択に関わる指導の適切性

必須・就職担当部署の活動の有効性

選択・学生への就職ガイダンスの実施状況とその適切性

選択・就職統計データの整備と活用の状況

◆共通（教職志望を除く）

[現状の説明]

大学教育は、各学部・学科の専門教育を通じた学力の育成が中心となることは言うまでもないが、更には学生個々の人格・人間性の成長をも促すものでなければならない。本学が「自立心・対話力・創造性」を培うことを教育目標に掲げているゆえんである。大学の入口から出口、更に将来までを見据えた学生生活を一人ひとりの学生に対して、いかに自主的に設計させ過ぎさせることができるか、その努力に対する支援をいかにして十分になしうるか、これが進路・就職を担当する部署の主たる役割である。その役割が、近年の大学教育の中で非常に重要性を増してきたため、本学では、従来学生部内の一部署だった就職課を2006年度から「キャリアサポートセンター」として独立させ、学生の進路・就職に関する指導・支援のより一層の充実・強化に努めている。センターからの各年次生に対する働きかけは、以下のとおりである。

[1年次]

本学では、2006年度から全学共通教養科目として、1年次教育の中にキャリア教育を導入し、前期に「キャリアに学ぶ」を開講した。2007年度にはそれに加えて、後期に「キャリアデザイン」を選択科目として開講した。前者は、女性の経営者或いは重役として活躍中の方に経験を話していただき、学生に女性として社会で働くことへの動機付けにしておらおうとするものであり、後者は、学生一人ひとりが就職の問題を自分の将来設計の中で考え、そこへの筋道を描くように導くと共に、履歴書の書き方、マナー等具体的なテクニックを身に付けさせようとするものである。「キャリアに学ぶ」の運営にあたっては、キャリアサポートセンターが教育研究機構と連携・協力し、「キャリアデザイン」では、「就職活動の流れ」、「何故働くのか」、「業界研究・企業研究について」の講義をキャリアサポートセンターが協力・担当している（p.199表5-1参照）。

〈「自己発見レポート」について〉

2006年度までは1年次生を対象（一部の学科をのぞく）に入学時のオリエンテーション期間

を利用して受検させ、その後3回に分けてフォローアップセミナーを実施したが、回を重ねるごとに参加者が激減するようになり効果面で課題を残した。そのため、2007年度からは「キャリアデザイン」の授業の中に組み込む形式を採用することにした。

(自己発見レポート:「基礎学力(英語運用、日本語理解、判断推理)」、「社会的強み」、「進路に対する意識」、「性格の傾向」、「問題解決のスタイル」、「職業への興味」を調査する特定の業者による調査プログラム。)

(目的)

1年次前期の「キャリアに学ぶ」の授業では、社会人として働く女性から、人生の生き方・キャリアについての講義を通じて、受講生自身がライフデザインを考えるヒントを得て、「夢を実現する手がかり」を見つけてもらい、後期の「キャリアデザイン」の授業で「自己発見レポート」を実施し、入学時の目的意識醸成と主体的な学生生活を送るために何が必要であるか、の気付きを与えることにある。

(2008年度実施計画)

1. 2008年 9月29日(月) 自己発見レポート受検実施
2. 2008年 11月10日(月) フォロー講座①自分の性格や強みを考えよう
3. 2008年 11月17日(月) フォロー講座②仕事と学業との関連性を考えよう
4. 2008年 12月 1日(月) フォロー講座③キャリアアップの完成

(効果)

この自己発見レポートの受検を契機に、1年次生から2年次生にかけての学生生活の過ごし方を自ら考え、「行動計画書」を作成し行動に結びつける。そして、その結果がキャリア形成を考える糸口になることを期待している(表5-1参照)。

表5-1 「キャリアに学ぶ」・「キャリアデザイン」履修状況(2007年度)

科目名	履修人数								
	日文	英米	国際	教育	史学	家政	管理	科目等履修生	合計
「キャリアに学ぶ」 (授業計画書 SYLLABUS 参照)	22	36	15	86	34 (16)	0	32	2	227
「キャリアデザイン」 (授業計画書 SYLLABUS 参照)	37	31	4	88	33	62	46	0	301

注) 人数は1年次生、カッコ内は2年次生(内数)

また、キャリアサポートセンターは、エクステンション講座の窓口となり、秘書技能検定試験(2級・準1級)、販売士検定試験(2級)、漢字検定試験(2級)、TOEIC Test、Microsoft Office Specialist 試験(Excel・PowerPoint)の資格取得を目的とした正課外授業を開設している(『エクステンション(資格取得)講座:概要一覧<平成20年度開講>』参照)。

その他、専門職を目指す学生については、教職希望者には教職支援センターで資格取得から就職まで、管理栄養士希望者には管理栄養士養成対策室で、主として資格取得に関して1年次生から4年次生まで一貫した教育プログラムが用意され進路支援が実施されている。

教職支援センターについては、後述(p.202)する。

【2年次】

企業等の採用活動は年々早まる傾向にあり、その対策として学生が早期に自らの卒業後の進路、キャリアを具体的に考え、学生生活を有意義に過ごすことが必要となる。そのような背景

から2年次はキャリア教育の中では節目となる時期である。2年次における学生の進路選択の指導は、学部・学科単位で毎年5月から7月にかけて行われ「クラス担任による学生相談」で行われる。学生一人ひとりの状況を把握し、各人が抱えている問題や悩み等を聞き取り、学生の修学・就職意識を高めると共にキャリア支援・進路支援を行っている。

キャリアサポートセンターでは、1年次実施のエクステンション講座に加えて、公務員受験対策講座を開講する等、進路に関わる資格取得及び試験対策も行っている（『神戸女子大学 就職対策プログラム（平成20年度）』参照）。

【3年次】

3年次では、キャリアサポートセンター主導で、就職・進路支援に関わる具体的指導を行っている。全学部の3年次生（大学院の学生を含む）を対象に、5月から5回にわたり「就職ガイダンス」を実施している。また、就職活動の流れに沿って、「新聞の読み方講座」、「就職ナビ活用セミナー」、「履歴書の書き方講座」、「面接の受け方講座」等の特別講座を開講し、更に業界研究・企業研究の一助として10月に「学内業界セミナー」、2月に「学内企業セミナー」を開催している。そして就職試験対策として、民間企業就職希望者向けの「就職試験対策講座」、公務員希望者向けの「公務員受験対策講座」を実施している（『神戸女子大学 就職対策プログラム（平成20年度）』参照）。

学生が実体験を通して職業意識を身に付けることを目的とした「インターンシップ」は、徐々にその取り組みを広げつつあるが、現在は本学が提携を結んだ団体（経営者協会等）の仲介によるものを中心に実施している（『平成19年度インターンシップ実施現況報告』参照）。

進路選択に関する種々の疑問や悩みを持っている学生に対しては、後期から外部講師による「キャリアカウンセリング」を実施し、問題解決のための場を提供している。「就職ガイダンス」の4回目（12月）に行う、内定を取得した4年次生からの「就職活動体験談発表会」は、3年次生等にとって、先輩たちの実際の就職活動体験を聞き、自らの疑問に答えてもらうことのできる機会である。

11月以降には、実際の進路決定に向けて具体的な動きが始まる。この時期に、全学生が自らの希望進路先を記載した「就職登録票兼進路希望調査票」をキャリアサポートセンターに提出する（『SHINJO COMPASS 2008』参照）。これは、以後、各学生の就職活動の進捗状況を管理すると共に、一人ひとりの必要に応じた適切な指導をしていくための基礎となるものである。そして、業種・職種によっては2月・3月に就職活動が開始され、個別に具体的な対応を始めている。

なお、教員希望者には、教職支援センターが窓口となり、個別相談や教職採用試験対策講座を実施している。

【4年次】

4年次は学生各人が自らの進路（就職）先を実際に決定するための活動に取り組む。それと並行して、キャリアサポートセンターでは学生の個別面談や履歴書・エントリーシートの添削指導及び模擬面接等の支援を随時行う（『SHINJO COMPASS 2008』参照）。

キャリアサポートセンターでは、進路（就職）状況の実態把握のため、6月頃、11月頃、卒業時の3回に分けて「進路状況アンケート」を実施している。それぞれの時点で内定していなかったり、新たに就職活動を始める学生に対して、全職員が個別指導にあたったりしている（職員6名の内2名はキャリア・デベロップメント・アドバイザー（CDA）資格の取得者である）。なお、各学生への個別面談や未内定者に対するフォローは年間を通じて行っている。

また、就職関係の統計データは毎月更新して一覧化し、学科毎・ゼミの担当者に示して学生指導に活用してもらっている。

〈本学の就職実績〉

ここ数年、景気の回復とも相俟って、着実に好転しており、2007年度の就職率はどの学科も84.0%を超え、就職決定率は全学部で90.4%となっている。

[点検・評価—長所と問題点]

進路指導は全学的な協力が得られるようになり、1～2年次のキャリア支援、3～4年次の進路・就職支援等、体系的かつ段階的な体制整備がなされつつある。最近の就職実績の向上はこれらの成果によるものであると考えている。しかし、以下の課題については更に努力する必要がある。

1. 1・3・4年次の支援内容と比較し、2年次の支援プログラムがまだ不十分である。2年次のキャリア支援策を検討する必要がある。
2. 現在のインターンシップ制度のあり方では、それを利用しうる学生に限られる。低学年から、より多くの学生が利用できるような仕組みに変えていかなければならない。
3. キャリアサポートセンターが1～4年次にわたって、きめの細かいより一層効果的なキャリア支援・就職支援を行うためには、学生が参加しやすい正課時間帯を確保できることが望ましい。

[今後の改善・改革に向けた方策]

近年、入学してくる学生像の傾向は、「考え方や人生観が多様化し、大学に入学する目的も千差万別である」と推察されるなかで、キャリア支援・就職指導については、今一度原点に立ち戻って現状を振り返り、学生のニーズに合致した4年間のキャリア支援・就職指導プログラムを構築しなければならない。その実現のために現在の「就職対策プログラム」を見直し、全学生が満足できる内容に整備・改善していく必要がある。

これをうけて、進路指導委員会においては2007年度のメインテーマとして、①2年次生を対象にした「キャリア教育」の新規開講、②インターンシップ制度の内容の見直し、③キャリアサポートセンターのホームページ刷新、④卒業生に対する支援実施の4項目を選択し、4回にわたり同委員会にて検討を重ねてきた。今後も継続審議し、2009年度中には改善策を答申案にまとめたいと考えている。

ここで、審議過程において課題となり全学的見地から解決していかなければならないポイントは、前述の①と②では、(イ)キャリア教育の必要性は誰しも認めているものの実際の運用となると、担当教員の任命をどうするのか、(ロ)現行のシラバスに追加して時間割の確保が可能であるのか、という点である。他部署との調整作業及びキャリア教育に関する授業の位置付けを明確にしていくことが先決課題となっている。

一方、キャリアサポートセンター独自で対応すべき課題としては、③のホームページの内容刷新と、④卒業生支援であるが、この問題は2008年度にスタートする新事務システム機能と密接に関連しているため、問題点・要望を洗い出したうえでシステム部門と打合せを行い、逐次改善もしくは実施できるように動く必要がある。

最後に、本学の卒業生として「有為な人材を数多く社会に送り出し、学生から見ても満足できる就職・進路支援サービスの提供」に力点を置いて、キャリアサポートセンターの取り組みを強化していく必要がある。そのためには、その体制の確保と教員との連携が不可欠である。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

大学評価
(認証評価)
結果

◆共通（教職志望）

〔現状の説明〕

学園教職支援センターは本学園の教職課程運営の拠点となり、教職課程のカリキュラム（教育課程）の検証及び改善、教職課程認定に係る法令遵守に関するチェック体制、学生指導、教職課程履修指導、教育実習及び介護等体験指導、教員採用試験対策等を含めた教職指導の充実を図ること及び本学園の教職課程運営に関する方針を策定することを目的として2007年4月に設置された。

1. 所掌業務の概要

(1) 教学部門

「教職指導」の体制強化を図り、一元的な指導を執り行い、教育実習、観察実習、学校ボランティア、スクールサポーター、インターンシップ等を通しての体験的・実践的な指導力が修得できるように支援する。更に公私立学校・幼稚園への採用試験対策の充実を図る。また、教職への意欲と情熱を喚起し、継続的な各種教職ガイダンスを実施して教育現場が求める人材の育成に当たり、大学が丸一丸となってより多くの優秀な教員の養成に努めることで社会貢献を図り、大学の発展に資することを目指している。

(2) 事務部門

これまで教務課及び資格課で行っていた教職関係の事務の大部分（課程認定業務を含む）を引き継ぎ、より専門性を高める体制を整えようとしている。これまで教員が行っていた教職関連の事務（例えばスクールサポーター、各種ガイダンス・講座等々）を一元的に行い、また、私立学校・幼稚園への採用対策に関する事務についてキャリアサポートセンターより引継いでいる。このように、教職に関する事務の取扱い窓口を一本化し、更に教学部門と一体化することにより、学生の適性や履修履歴等に応じたきめ細かな指導・助言や支援を行うことを推進している。

2. 主な取り組み

『学園教職支援センター運営規程』、『教員養成カリキュラム委員会規程』等の策定を終え、これまで希薄であった組織的な教職指導体制への足場を整えたこととなる。教職履修者向けの履修ガイドブックを作成し、1年次から卒業までの一連の流れを体系的に示すものが一応の完成を見た。

キャリアサポートセンターより私立幼稚園への就職支援を引き継ぎ、2008年3月卒業者の私立幼稚園就職希望者もほぼ全員就職先が決定した。

各種ガイダンスや対策講座等の周知を図り参加学生が増加した。

編入生や科目等履修生も増加し、他大学や短期大学での履修科目の単位認定や旧免許法と現行法の科目の読替えのための専門的知識がますます必要となる。

表 5-2 2008 年度公立学校園教員採用最終試験合格者数

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
合格者	7(5)	83(34) 補欠 1	14(9) 補欠 1(1)	1(1)	1(1)	106(50) 補欠 2(1)

注) () の数は本学既卒者で内数

表 5-3 2008年3月卒業生教員免許状取得状況一覧表

学部・研究科等	幼稚園免許状		小学校免許状		中学校免許状		高等学校免許状		合計
	専修	一種	専修	一種	専修	一種	専修	一種	
文 学 部	0	194	0	185	0	64	0	91	534
家 政 学 部	0	0	0	0	0	34	0	37	71
学校教育学専攻科	1	0	6	0	0	0	0	0	7
家政学研究科	0	0	0	0	6	0	6	0	12
文学研究科	1	0	1	0	1	0	1	0	4
合 計	2	194	7	185	7	98	7	128	628

[点検・評価—長所と問題点]

学園教職支援センターは、設置2年目であるが、入学当初からのガイダンスの強化、自学自習環境の整備、個別面接指導、関連教材の整備等を進め、センター設置前に比較して、特に小学校教員採用試験合格数が増加傾向にある。また、体験的・実践的な活動を通して、教員としての資質能力の向上を目指すことを主眼に、スクールサポーター制度や幼稚園インターンシップ制度を積極的に推進し効果を上げつつある。

学内の教職課程に関する事項を一元的に取り扱うことにより、学生個々の履修状況や学修状況が把握しやすくなったため、特に教務的な事柄が採用試験対策に生かしやすくなった。

国の教職施策への対応や学生の履修相談、教育実習等は教員免許法及び教員免許法施行規則等の法令遵守が求められるところである。

2008年度夏には、教員免許状更新講習予備講習を実施し、2009年度からの本実施に向けた課題も見出すことができた。

[今後の改善・改革に向けた方策]

今後は、教員免許法及び同施行規則の改正による新たな科目「教職実践演習」が2010年度入学生より適用され実施することになるが、その趣旨に鑑み、より一層学生個々の学修履歴の把握をすべく、そのシステムの構築を図っていく。また教員免許更新制に対応すべく、教員免許状更新講習の実施を軌道に乗せ、予備講習の結果をふまえ、規程の整備や実施マニュアルの整備を進めていく。更に、卒業生とのネットワーク作りを本格的に進めていく。

多様な履修形態の学生が増加しており、対処できるだけの知識と経験が必要となる。免許法解釈に係る各種研修会や研究会に積極的に参加し、免許法理解を深めるための研鑽を行い、一層の教職指導の充実を図る。

◆家政学研究科

食物栄養学専攻

[現状の説明]

本学大学院学生の進路選択については、担当指導教員が中心となって指導を行っている。キャリアサポートセンターでは、就職対策講座、ガイダンス等で、学部卒業予定者のみならず、大学院修了予定者にも履歴書の書き方、面接対策等きめ細かい指導を行っている。また、大学院の求人は各研究室宛に常に配信されているが、学生自身もインターネット等で就職情報や教員公募等について情報収集し、応募しているのが現状である。進路状況は p.204 の表 5-4 とおりである。

表 5-4 食物栄養学専攻修了者（含満期退学者）の進路状況
 (博士前期課程)

2008年3月修了	修了者10名	就職決定7名	進学2名
2007年3月修了	修了者 6名	就職決定4名	進学1名
2006年3月修了	修了者 6名	就職決定5名	進学0名
2005年3月修了	修了者 4名	就職決定4名	進学0名
2004年3月修了	修了者 7名	就職決定5名	進学1名
主な就職先：大阪赤十字病院、常盤薬品工業株式会社、山口県立大学 主な進学先：神戸女子大学大学院			

(博士後期課程)

2008年3月修了	修了者0名
2007年3月修了	修了者0名
2006年3月修了	修了者0名
2005年3月修了	修了者2名 就職決定2名
2004年3月修了	修了者0名
主な就職先：神戸女子大学	

[点検・評価—長所と問題点]

本学は博士前期課程及び後期課程を備え、博士学位の授与を行い得るため、前期課程修了後更に研究を続けたい学生にとっては、恵まれていると言える。社会人入学をする学生に対してもカリキュラムが柔軟に配慮され、大学院における研究成果を即職場へ還元することが可能となった。ただし、厳しい経済状況の中、研究者・教員の公募が激減している。また、企業にとっても研究者の受け入れが厳しい状態が続いており、大学院で修得した高い専門性を活かす求人確保することが、非常に困難になっている。特に博士後期課程修了者は、大学教員等の研究職を目指す学生が多く、自らの研究をPD、研究生として続けながら自分にあった公募を待っている学生も存在する。そのような現状ではあるが、本学学生は修了年度の進路決定率が高いことが特徴であると言える。その要因としては、指導教員と社会のパイプの太さや、1984年3月認可の神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻（修士課程）、1989年3月認可の博士課程（後期）の伝統、社会で活躍している多くの卒業生、修了生の実績と支援が大きき力となっている。

[今後の改善・改革に向けた方策]

高度な専門的能力を持った人材育成を今まで以上に強化すると共に、その能力を活かす職場を確保するため、指導教員、キャリアサポートセンター、卒業生ネットが連携を深め、就職先開拓の充実と情報収集の強化を図ること、学生への情報提供の効率化を進めることが望まれる。

生活造形学専攻

[現状の説明]

大学院生の進路選択に関わる指導は、主として指導教員によって個別に行われているのが現状である。学部生と同様に本学のキャリアサポートセンターを利用している学生も多い。

生活造形学専攻修了者（含満期退学者）の進路状況は以下のとおりである（表 5-5 参照）。

表 5-5 生活造形学専攻修了者（含満期退学者）の進路状況
（博士前期課程）

2008年3月修了	修了者7名	就職決定3名	進学2名
2007年3月修了	修了者3名	就職決定1名	進学1名
2006年3月修了	修了者3名	就職決定3名	
2005年3月修了	修了者1名	就職決定0名	進学0名
2004年3月修了	修了者2名	就職決定2名	
2003年3月修了	修了者5名	就職決定4名	進学0名
主な就職先：兵庫県公立高等学校（臨時）			
主な進学先：神戸女子大学大学院			

（博士後期課程）

2008年3月卒	該当者なし
2007年3月卒	該当者なし
2006年3月卒	該当者なし
2005年3月卒	該当者なし
2004年3月卒	該当者なし
2003年3月卒	該当者なし（満期退学者1名あり）
主な進学先：金沢大学大学院	

〔点検・評価および今後の改善・改革に向けた方策〕

大学院生の絶対数が少ないため、まだ進路選択に関わる指導が定着していない。学生の相談に応じて、指導教員或いはキャリアサポートセンターの担当が対応しているのが現状である。

大学院修了者に対する求人は活発ではない。この点は、学部生が大学院への進学を躊躇する一つの要因になっている。大学院修了者が社会で大いに活躍する実績を上げ、その結果として求人が増えれば大学院進学者も増加するものと期待できる。

◆文学研究科

日本文学専攻

〔現状の説明〕

他大学から教員の公募があった場合には、担当教員で協議して適格者に伝え、指導教員が学生の相談に応じている。日本文学専攻修了者（含満期退学者）の進路状況は以下のとおりである（表 5-6 参照）。

表 5-6 日本文学専攻修了者（含満期退学者）の進路状況
（博士前期課程）

2008年3月修了	修了者3名	就職決定1名	進学1名
2007年3月修了	該当者なし		
2006年3月修了	修了者3名	就職決定0名	進学1名
2005年3月修了	修了者2名	就職決定1名	進学1名
2004年3月修了	修了者2名	就職決定1名	進学1名
主な就職先：彰化YMCA（台湾）、兵庫県立中学校（臨時）			
主な進学先：神戸女子大学大学院			

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

大学評価
（認証評価）
結果

(博士後期課程)

2008年3月修了	修了者1名 就職決定1名 進学0名
2007年3月修了	該当者なし (満期退学者1名あり)
2006年3月修了	該当者なし (満期退学者1名あり)
2005年3月修了	該当者なし
2004年3月修了	修了者3名 就職決定2名 進学0名
主な就職先：京都西山短期大学、神戸松蔭女子大学	
主な進学先：なし	

[点検・評価—長所と問題点および今後の改善・改革に向けた方策]

学部生に対するキャリアサポートセンターのように、組織的な取り組みについて検討する。

英文学専攻

[現状の説明]

学生が進学或いは就職するにあたり、個々の学生の希望と能力に応じた進路指導や助言を指導教員が中心となって行っている。英文学専攻修了者（含満期退学者）の進路状況は以下のとおりである（表5-7参照）。

表5-7 英文学専攻修了者（含満期退学者）の進路状況

(博士前期課程)

2008年3月修了	修了者2名 就職決定1名 進学0名
2007年3月修了	修了者1名 就職決定0名 進学0名
2006年3月修了	修了者2名 就職決定1名 進学1名
2005年3月修了	修了者1名 就職決定1名 進学0名
2004年3月修了	修了者2名 就職決定1名 進学1名
主な就職先：(株)ポートピアホテル、(株)ブレインワークス	
主な進学先：神戸女子大学大学院研究生	

(博士後期課程)

2008年3月修了	該当者なし
2007年3月修了	該当者なし
2006年3月修了	該当者なし (満期退学者1名あり)
2005年3月修了	該当者なし
2004年3月修了	該当者なし (満期退学者2名あり)
主な就職先：兵庫県公立高等学校、神戸女子大学（臨時）	
主な進学先：なし	

[点検・評価—長所と問題点]

少人数教育が可能な条件の下で、学生一人ひとりの能力や人となりをよく知る教員が指導にあたる環境は、学生にとって一般的には好ましい。しかしながら、今日では、修士学位や博士学位を持った学生が必ずしも研究・教育機関に就職していくわけではなく、進路選択は多様化している。そうした時代の流れと社会のニーズを教員が十分把握しているとは言い難い。

[今後の改善・改革に向けた方策]

大学のキャリアサポートセンターの協力を得て、就職情報の入手に学生、教員共に努める。

日本史学専攻

[現状の説明]

学生の進路選択については、指導教員ごとに指導を行っているのが現状で、日本史学専攻全体での指導体制は確立されていない。日本史学専攻修了者（含満期退学者）の進路状況は p.207

表5-8のとおりである。

表5-8 日本史学専攻修了者（含満期退学者）の進路状況
（博士前期課程）

2008年3月修了	修了者2名	就職決定0名	進学0名
2007年3月修了	修了者6名	就職決定2名	進学2名
2006年3月修了	修了者5名	就職決定4名	進学0名
2005年3月修了	修了者3名	就職決定0名	進学2名
2004年3月修了	修了者8名	就職決定5名	進学2名
主な就職先：川之江市役所、(株)富士ゼロックス総合教育研究所、(社)静岡市静岡医師会			
主な進学先：神戸女子大学大学院研究生			

（博士後期課程）

2008年3月修了	該当者なし		
2007年3月修了	該当者なし		
2006年3月修了	該当者なし		
2005年3月修了	該当者なし（満期退学者2名あり）		
2004年3月修了	該当者なし（満期退学者4名あり）		
主な就職先：姫路市役所（臨時）、加古川市役所（臨時）			
主な進学先：なし			

[点検・評価—長所と問題点]

日本史学専攻全体としての指導体制が確立されていないことが、問題点である。大学院で獲得した知識・能力を社会の中で有効に活用していくためにも、各学生の進路選択については、総合的な視野から指導を行う必要がある。

[今後の改善・改革に向けた方策]

進路選択の問題については社会のニーズをきめ細かにキャッチしていくことが求められる。そのためには、キャリアサポートセンターと連携して、進路選択の指導を行う体制を作っていく必要がある。

教育学専攻

[現状の説明]

教育学専攻では、博士前期課程、後期課程とも、指導教員が研究指導に当たるなかで、進路についての相談にも応じている。博士前期課程は、教員への志望が多いため、神戸女子大学にある教職支援センターの助言を受けるように指導している。

博士後期課程の学生には、研究職の公募等を知らせている。研究職の公募等は、共同研究室に掲載し、学生への周知を図っている。教育学専攻修了者（含満期退学者）の進路状況は以下のとおりである（表5-9参照）。

表5-9 教育学専攻修了者（含満期退学者）の進路状況
（博士前期課程）

2008年3月修了	修了者2名	就職決定0名	進学0名
2007年3月修了	修了者1名	就職決定1名	進学0名
2006年3月修了	修了者1名	就職決定1名	進学0名
2005年3月修了	修了者4名	就職決定0名	進学1名
2004年3月修了	修了者4名	就職決定1名	進学1名
主な就職先：大阪府公立小学校（臨時）、兵庫県公立小学校（臨時）			
主な進学先：神戸女子大学大学院、神戸市医師会看護専門学校			

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

大学評価
(認証評価)
結果

(博士後期課程)

2008年3月修了	該当者なし (満期退学者1名あり)
2007年3月修了	該当者なし (満期退学者1名あり)
2006年3月修了	該当者なし
2005年3月修了	該当者なし
2004年3月修了	修了者1名 就職決定1名 進学0名
主な就職先：西南女学院大学	
主な進学先：なし	

[点検・評価—長所と問題点]

本学では、教員採用試験についての情報が豊富であるため、教員を目標にしている博士前期課程の学生は自主的に学修することができる。しかし、教員採用試験に向けての学修と、修士論文の完成との両立が難しい。教員採用試験のための学修を重視すれば、博士前期課程の1年目の前半は、試験対策中心になる。採用試験に合格し教員として採用された場合、前期課程2年目からは教員となり、夜間の授業しか履修できなくなる。新任の教員としての研修等もあるため、大学院での研究はあっという間に困難になってくる。ここ3年間は、このような状況にある教育学専攻の学生が増えている。

研究者を志望している博士後期課程の学生に対しては、専門領域の問題もあり、指導教員の個別の指導や助言によるところが大きい。

[今後の改善・改革に向けた方策]

博士前期課程の学生に対しては、修士学位取得に向けた長期履修学生制度を2008年度入学生から導入した。

博士後期課程の学生に対しては、指導教員だけに任せるのではなく、研究指導と同様に就職指導においても、教員が組織的に支援する体制が必要である。それにはまず、学生の研究内容を教員相互が確認することが前提となる。毎年度に学生が提出する研究報告書を専攻の全教員が確認する制度を作る。

E. 課外活動

必須・学生の課外活動に対して大学として組織的に行っている指導、支援の有効性

[現状の説明]

学友会が行うスポーツ大会、大学祭（コスモス祭）とクラブやサークルの活動がある。スポーツ大会や大学祭に関しては、後述する学友会打合会で理事長、学長と学生部長が意見交換、アドバイスや打ち合わせを行っている。また、クラブやサークルに対する活動費の配分については、学生部長が助言を行って決定している。

全学生に対するクラブ活動参加者の比率は27.9%である（p.209表5-10参照）。体育会系クラブの成果はp.209表5-11のとおりである。文化系クラブは、隣接する須磨離宮公園で行われるさまざまな行事に茶道部、パン研究会、音楽系サークル等が参加し、イベントの活性化を行っている。

表 5-10 2008 年度クラブ・同好会一覧

文化系			体育系		
名称		人数	名称		人数
クラブ	1 E.S.S 部	6	クラブ	1 空手部	11
	2 イタル部	26		2 キッズリーダー部	17
	3 演劇部	4		3 弓道部	35
	4 華道部	18		4 剣道部	8
	5 近代文学研究会	10		5 硬式テニス部	15
	6 クラシックギター部	16		6 サッカー部	16
	7 軽音楽部	17		7 少林寺拳法部	7
	8 コーラス部	15		8 水泳部	13
	9 神戸女子大学管弦楽団	41		9 スキー部	9
	10 茶道部	21		10 ソフトテニス部	11
	11 写真部	12		11 デンマーク体操部	49
	12 手話部	16		12 バスケットボール部	15
	13 書道部	10		13 バドミントン部	22
	14 箏曲部	10		14 バレーボール部	18
	15 パン研究会	78		15 ユースホステル部	21
	16 美術部	12		16 ラクロス部	30
	17 BBS 部	13		17 陸上競技部	5
	18 服飾研究会	30		18 レクリエーション指導研究会	12
	19 マンドリン部	3		19 ワンダーフォーゲル部	6
同好会	20 アジア友の会	11	同好会	20 神女娘舞	10
	21 人権問題研究会	0		21 ダンス同好会	54
	22 天文同好会	6	体育系 (合計)		384
	23 ボランティア活動本部	8	総合計		856
	24 V-n-e-t プラス	48	在学生 (2008 年 5 月末現在)		3072 (注)
	25 民俗学研究会	15	加入率		27.9%
	26 ローターアクト	26	文化系 (合計)		472

注) 在学生数は、学部生のみ

表 5-11 2008 年度体育会クラブの成果

クラブ名	成績	備考
スキー部	関西基礎スキー大会 1 位、関西デモ大会女子総合優勝	
バレーボール部	関西バレーボール連盟 4 部 1 位	3 部昇格
弓道部	リーグ戦 6 部 1 位	5 部昇格
ユースホステル部	村尾育英会賞受賞	
(水泳の部)	北京パラリンピック出場決定 (今年 3 月卒業生)	

[点検・評価—長所と問題点]

安全・健康管理等に関する教育・指導はリーダー研修等で定期的実施している。

体育会系クラブには、大きな成果は少ないが、地道な努力が続けられている。文化系クラブは、須磨離宮公園の行事に参加することで地域の活性化に貢献している。大学として個々のクラブへの組織的指導は行っていないが、学友会への運営指導を学友会打合会で行っている他、クラブからの支援要請には柔軟に対応している。

[今後の改善・改革に向けた方策]

当面は、現状のシステムで運営を図る予定である。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

大学評価
(認証評価)
結果

選択・資格取得を目的とする課外授業の開設状況とその有効性

[現状の説明]

キャリアサポートセンターが窓口となって、主に1～2年次生を対象に秘書技能検定試験、販売士検定試験、漢字検定試験、TOEIC Test、Microsoft Office Specialist 試験等の資格取得のための課外授業を開設している。各講座の受講状況と試験合格状況は以下のとおりである(表5-12参照)。

表5-12 2007年度エクステンション講座受講状況と試験合格状況

講座(試験)名	受講者	受験者	合格者	合格率
秘書技能検定試験講座 (2級コース)	81	109 (28)	68	62.4%
秘書技能検定試験講座 (準1級コース/一次試験)	19	20 (1)	12	60.0%
秘書技能検定試験講座 (準1級コース/二次試験)	19	12	5	41.7%
販売士2級検定試験講座	6	6	4	66.7%
漢字検定2級試験講座	6	15 (9)	6	40.0% 受講生は50.0%
TOEICスコアアップ講座	18	18	—	—
Microsoft Office Specialist (Excel)	22	16	16	100%
Microsoft Office Specialist (PowerPoint)	13	9	9	100%

注1) カッコ内は講座未受講者(内数) 注2) 須磨キャンパスでの実施状況

[点検・評価—長所と問題点]

現在開講のエクステンション講座(5講座)は、社会人として必要かつ実務面で役に立つ資格を厳選し実施している。ただし、専門的職業に就きたい学生に対しては、現開講状況では不足しており、学生からのアンケート等でニーズを把握し、それに応えていくように検討する必要がある。

[今後の改善・改革に向けた方策]

時代の流れや経済情勢に合った進路指導を今後も継続していく。また、2008年度は学生個人面談に合わせて学生が取得を希望する資格や進路についてのアンケートを実施し、学生ニーズの把握に努め、今後の開講講座等の検討材料とする予定である。

選択・学生代表と定期的に意見交換を行うシステムの確立状況

[現状の説明]

全学生で組織している神戸女子大学学友会がある。この学友会の役員(会長、副会長2名、書記局長、書記局次長、会計局長、会計局次長、文化局長、文化局次長、体育局長、体育局次長、計11名)と理事長、学長、部局長代表1名、学生部長、学生部次長、学生課長で毎月1回「学

友会打合会」を実施している。ここでは、学友会会長が司会進行を行い、学友会からの大学に対する要望事項や諸行事に関する打ち合わせを行い、相互の理解を深めるように努めている。ポートアイランドキャンパスの学生の意見については、学友会長及び役員だけでなく、健康福祉学部所属の学生部担当教員（学生部次長1名を含む）も積極的に聞き、須磨キャンパスの学生部や打合会で伝えるよう配慮している。

[点検・評価—長所と問題点]

毎月1回開催する「学友会打合会」は、学生代表と大学の代表が直接意見交換を行うシステムとして有効に機能している。ただ、須磨キャンパスにおいて昼休み時間の50分を使って行っているため、学生代表の内ポートアイランドキャンパスに所属する全員が出席できないという問題点がある。このため、会長が前もって意見等を聴取し、後日会議の主旨を伝える等工夫をしているが、直接話すことができない点が残念である。また、大学祭終了後（11月）は、役員交代等があるため翌年4月まで開催されないため、この間に相互の連絡に空白期間が生じてしまっていた。

[今後の改善・改革に向けた方策]

学生の意見が大学幹部にも理解されるように今後も現在のシステムを継続する。また、ポートアイランドキャンパスの学生の意見については、学友会長及び役員だけでなく、健康福祉学部所属の学生部担当教員も積極的に聞き、須磨キャンパスの学生部や打合会で伝えるよう配慮する。更に、空白期間をできるだけ少なくするため、11月以降も役員任期中、毎月1回は学友会打合会を継続することを学友会打合会（2007年11月13日実施）で双方合意した。

また、2008年度から健康福祉学部所属の学友会メンバーにより「ポートアイランド学友会」を発足させ、スポーツ大会、大学祭等をポートアイランドキャンパスのみでも活動が行えるようにした。今後は両キャンパスが連携しながら様々な行事が推進できるような体制づくりを大学側が協力しながら構築できるようにする計画である。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

 大学評価
 (認証評価)
 結果

